

# ときめき人

Tokimeki bito

## 真心込めた、音を届けていく



ボランティアグループ  
「ハートウェーブ」

「『声の広報ありがとう』と言われることがあります。これが活動の原動力」と話す一同。

ボランティアグループ「ハートウェーブ」は「広報とめ」と「とめし社協だより」を音声データにした「声の広報」を制作している。「声の広報」は、市と市社会福祉協議会ホームページに掲載されているほか、市社会福祉協議会を通じて、希望する視覚障害者に毎月届けられている。

取り組みのきっかけは1998年、朗読グループで活動していた田口浩子さん(故人)に当時の迫町長が「声の広報を作ってほしい」と依頼したこと。田口さんの声掛けにより、協力者の輪が広がり、現在市内60、70代の女性17人がハートウェーブに所属し、声の広報を制作している。

声の広報は、聞き手のことを考え、80分のCD

1枚に収録、「1枚であれば手軽」と、女性ならではの細やかな配慮がなされている。

「作り手の思いやメッセージをしっかりと届けたい」と、特集や人物紹介などは、しっかりと読み込んでから収録に入る。朗読は、心地よく聞いてもらいたいと、間の取り方や口調が強くなるよう注意。収録後は、パソコンの専用ソフトを使い、編集作業に取り掛かる。これだけの作業を、広報紙発行から1週間で終わらせ、データを届けている。「情報はタイムリーに、市民全員に知る権利があります。微力ですが、その手伝い如果能れば」とにっこり。メンバーたちは、苦勞を見せない。

ハートウェーブは「心音」を意味する。メンバーたちは、今日も「心を込めた音」を届ける準備に取り掛かっている。

## 編集後記

▼10月号の全国大会特集に続き、フォトコン世界2位、共進会日本一と、うれしい知らせを紙面で紹介できた。こういった知らせを受けるたびに、登米市の「人間力」のすごさを感じる。人が育つのは、その土壌があるから。古里が、豊かなまちだと感じた10月。(及川)

▼ときめき人で取材した「ハートウェーブ」の皆さん。あらためて「広報とめ」の作り手の思いを、大切にしたいと思っていることが心に染み渡りました。「仲間が宝」という会員の皆さん。ここまで続けられた理由が分かりました。声の広報は、市ホームページで聞けます。皆さんも聞いてください。(千葉)

▼劇団ドリーム☆キッズのミュージカル公演を鑑賞しました。キャストやスタッフなどの皆さんが一体となって作るステージに、いつも感動させられます。今回の物語のキーは「時間」。公演を通じて、改めて時間の大切さを考えさせられたステージでした。(伊藤)



モバイルとめ

(携帯電話版ホームページ)

<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<http://tomecity.mail-dpt.jp/>

